


■ 学校の共通目標

<b>授業作り</b>	<b>重 点</b> 一人一人が伝えたい思いや考えをもち、表現する力を伸ばせるよう、課題を的確にとらえ、主体的に考えることができるよう工夫する。 多様な交流の場を設定し、相互評価等、児童相互が良さを認め合い高め合う活動を工夫し、支持的風土を醸成する。	<b>中間評価</b> 課題の示し方や叙述をもとに読み取るための工夫により、考えを表出する力が伸びてきている。 ペアや小グループ等で伝え合ったり、話し合ったりする活動により、学習への意欲の高まりが見られた。	<b>最終評価</b> 教師が単元のゴールを見据え、指導を積み重ねてきたことで、課題を的確にとらえ、主体的に考える力を伸ばすことができた。 ペアやグループ活動、ICTを活用した意見交流など、交流の仕方を工夫したことで、互いの良さに気づき、自ら表現しようとする意欲が高まった。
<b>環境作り</b>			

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語	<p>学集中して、話を聞いたり読んだりして内容を理解することには、個人差が見られる。</p> <p>学示された話型に沿って、話すことに慣れてきた。声の大きさや話す速さを調節することが難しい児童も見られる。</p> <p>学作文は、書きたいことを書けるようになってきたが、書く内容を思いつかない児童もいる。助詞や、促音、拗音の正しい記述が、まだ十分に身に付いていない。</p> <p>学字形の特徴を捉えて、平仮名、片仮名、漢字を書くことが少しずつできるようになってきた。</p> <p>学正しく音読ができるようになってきたが、すらすらと読めない児童も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して話を聞き、大事なことを聞きとること。</li> <li>問われていることを理解して、文を読み取ること</li> <li>その場に合った声で、はっきり話すこと。</li> <li>書きたい内容を、相手に伝わるように、正しい表記で書くこと。</li> <li>学習した文字を、字形に注意しながら、正しい筆順で丁寧に書くこと。</li> <li>飛ばし読みや、勝手読みを無くし、正しく音読すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせや聞き取り練習などを日常的に行い、集中して聞く機会を多くもつようにする。</li> <li>指で押さえながら読む、大事な箇所に関線を引かせる、挿絵に注目させるなど、課題の与え方を工夫する。</li> <li>声の物差しや口の開け方を適宜示し、良い話し方をしている児童に注目させることで、自分の話し方の改善につなげる。</li> <li>文章を書く際は、ひな型を示し、それに沿って書けるように指導する。一言日記等の取組みを通して、自分の思いを文章に表すことに慣れさせる。また、書いた文章を読み返す習慣を付けさせる。</li> <li>毎日、書き取りの宿題を出し、丁寧に書けるよう、繰り返し練習させる。</li> <li>授業では、音読の機会を多く設け、また、毎日、音読の宿題を出すことで、習熟を図る。</li> </ul>	<p>学読み聞かせに対する反応は良く、話の内容についての質問に正しく答えられることが増えた。注意を引き付けてから話し始めることで、聞く姿勢を作ることができ、課題の内容等、大事なことを聞き取ることができた。集中力の持続時間は短いので、今後も、声かけ、板書や提示の仕方を工夫し、聞き取らせていく。</p> <p>学1時間ごとの学習のめあてを、言わせる、ノートに書かせる、めあてが提示されたワークシートを使用する等、意識させてきた。また、指で押さえながら読んだり、大事な箇所に関線を引かせながら読んだりを繰り返してきた。これらの積み重ねにより、課題を正しく理解し、課題に即して文章中の大事な箇所を見付け、内容には個人差はあるものの自分の考えを表現できるようになってきた。</p> <p>学マスク生活のためか、口形の指導が十分身に付いたとは言えず、声の大きさを調節することは難しかった。「わたしは～だと思えます。どうしてかという～だからです。」の言い方が身に付き、自分の意見を述べる際に、理由を話すことができる児童が増えた。</p> <p>学文章のひな型を示すことで、それに当てはめながら、多くの児童が課題に合った文を書けるようになった。日記指導を通して書くことに対する抵抗感も薄れてきた。しかし、内容については個人差があり、考えをまとめるために個別指導が必要な場面が多く見られた。また、自分の文章を読み返し、間違いを修正することができる児童は限られるので、初めから気を付けて書くよう指導した。</p> <p>学書き取りの宿題や書写での指導の結果、字形に気を配りながら漢字を書くことができるようになってきた。宿題を通して、漢字を使った言葉に興味をもつ児童も増えた。普段のノートの文字に指導や学習が活かされるよう、引き続き指導していく。</p> <p>学毎日の音読の積み重ねにより、多くの児童が、教科書の文章を正しく気持ちを込めて音読できるようになった。</p> <p>学数と計算領域では、数のブロックやおはじき等の操作を十分行うことで、加法や減法の立式や計算の仕方につなげることができた。朝の学習タイムや宿題でデジタルドリルや紙のドリルを繰り返し活用した効果が見られ、計算の正確さが増した。</p> <p>学授業では、「分かっていること」「聞かれていること」に関線を引いたり、図に表したりすることで、問題場面を正しく理解できるようになってきたが、テスト等、一人で取り組む際に、問題をじっくり読まないことによるミスが見られる。授業で身に付けた解き方を活用できるように、引き続き声かけをしていく。</p> <p>学隣同士で説明し合ったり、全員の前で自分の考えを説明したりする機会を積み重ねてきたことにより、他者に説明することに慣れ、段々と相手に分かるように説明できるようになってきたので、引き続き機会を設定する。</p>
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）  最終評価（2月）

2	<p><b>国語</b></p>	<p><b>学</b>姿勢や視線を意識させることで集中して聞き取ることができるようになってきた。言葉の意味が分からないために、内容の理解が十分できないことが見られる。</p> <p><b>学</b>適度な声の大きさをまだ十分身に付けられていない児童がいる。良い話し方の児童を褒めることで、聞きやすい速さや丁寧な言い方で話をする意識をもつことができる。</p> <p><b>学</b>1時間ごとの学習のめあてをノートに書かせたり、ワークシートを使用したりしたことで課題を理解し、自分の考えを表現できるようになってきた。本文から重要な箇所を見つけることが上手になってきた。</p> <p><b>学</b>テストや書写などでは、文字の特徴を捉えて正しく書けるようになってきたが、助詞の使い方によって課題が見られた。宿題や普段のノートでは丁寧さに欠けることがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なことを落とさないように開けるようにすること。</li> <li>・「いつ」「だれが」「だれと」「どうした」など、基本的な話の構造を理解し、話せるようにすること。</li> <li>・事柄の順序を考えながら大事なことを落とさず読めるように指導すること。</li> <li>・助詞を正しく使い、相手に伝わるように、自分の考えをまとめて書けるように指導すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつ」「だれが」「だれと」「どうした」等の話型を参考に、朝のスピーチを行うよう指導する。</li> <li>・授業の始まりに正しい姿勢で、「いつ」「だれが」「だれと」「どうした」等をメモし、大事なことを落とさないように聞かせる。</li> <li>・時を表す言葉や、主語、述語に線を引き、大事な箇所に注目させながら、読ませる。</li> <li>・助詞が正しく使われている模範文を示し、助詞の正しい使い方を定着させる。</li> <li>・友達の発表を聞いた感想や学習の振り返り等、書くことを繰り返し行うことで、自分の考えをまとめて書くことができるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しスピーチの活動を行ってきたことで、1学期よりも話の順序を整理し、話せるようになった。また、聞き手も質問の話型を提示したことで、内容について具体的に質問しようとする意識が生まれた。</li> <li>・1単位時間、姿勢を保持できるよう、引き続き指導し、大事なことを落とさず開けるようにしていく。</li> <li>・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることを意識して読むことができるようになった。更に読み取る力を伸ばすため、引き続き文章に線を引き、読むことを指導していく。</li> <li>・短い文を書く回数を増やした。生活科の記録カードや国語、算数での振り返り、友達に対する意見・感想を書く活動を行っている。短い文の中で助詞を正しく使えるように、今後も個別の指導を取り入れるなどしていく。</li> </ul>	<p><b>調</b>「話す・聞く」の領域については、全国平均よりも5.4pt上回っていた。スピーチ活動だけでなく、聞く姿勢や態度を向上させる指導を繰り返し行ってきた。聞く内容について具体的に聞き取ることができるよう意識させる声掛けを続けていく。</p> <p><b>調</b>「読むこと」についても全国平均より11pt上回っていた。この結果から、本文の言葉に着目して線を引いて読むことを意識させたり、言葉から分かることを想像したりして読む活動を積み重ねてきた成果が見られたと考える。言葉に着目して読むことを次学年でも引き続き指導していく。</p> <p><b>調</b>「書くこと」も、全国平均を大幅に上回っているの、漢字学習や作文や感想文等「書くこと」に重きを置いた指導による成果が表れている。継続していく。</p>
	<p><b>算数</b></p>	<p><b>学</b>毎日の宿題や朝の学習タイムの効果が見られ、計算の速度や正確さが増した。</p> <p><b>学</b>「分かっていること」「聞かれていること」に線を引かせたり、図に表したりすることで、問題を正しく理解できるようになってきたが、問題を自分で読む力にはまだ課題があり、問題場面を整理できないまま解答したことによるミスも見られる。</p> <p><b>学</b>ノートに自分の考えを書いたり、説明し合ったりする機会を積み重ねてきたことで、自分から説明しようとする児童が増え、友達と自分の考え方を比べることができるようになってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がり、繰り下がりのある計算を正確に解けるようにすること。</li> <li>・問題の意味を正しく理解して立式し、求答できるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がり、繰り下がりのある筆算では、補助数字を書くなど実態に応じて指導し、計算の仕方の定着を図る。</li> <li>・朝の学習タイムに、東京ベーシック・ドリルを継続して行い、既習事項の定着を図る。</li> <li>・毎日プリントやデジタルドリルなどの宿題を課し、その日に学習した内容の習熟を図る。</li> <li>・文章問題では「分かっていること」「聞かれていること」に線を引く習慣をつけさせたり、自分の考えをノートに書き、説明する場を多く設けたりしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習タイムでは、繰り返し東京ベーシック・ドリルを行ったことで、多くの児童に基礎的な計算力が定着してきた。</li> <li>・毎日プリントやデジタルドリル、計算ドリルなどの宿題を出して習熟を図っているが、正答率が十分でない。どんな問題形式でも確実に正答できるように、引き続き指導を繰り返し行い、定着を図る。</li> <li>・授業では、文章問題の中で、「分かっていること」「答えること」を明確にしながら取り組んできた。正しく理解して立式できるようになってきたため、自分の考えを発表する場を多く設け、引き続き指導をしていく。</li> </ul>	<p><b>調</b>基礎的な計算問題については、授業で概ねできており、全国平均も6.8pt上回っていた。しかし、繰り上がり、繰り下がりのある筆算問題では正確さに欠ける場所が見られた。引き続き、確実に正答できるように指導をしていく。</p> <p><b>調</b>図形、測定についても、区平均を上回っている。基礎基本だけでなく、難しい問題にも進んで取り組んだ成果が表れている。</p> <p><b>調</b>思考力も正答率は全国平均を上回っているが、内容を見ていくと長さを文章で問う問題についての正答率が低かった。文章をよく読み「分かること」「問われていること」を考えて取り組むことは引き続き指導が必要である。図などを用いて、視覚的にも文章題の内容を捉えることができるよう指導を続けていく。</p>
3	<p><b>国語</b></p>	<p><b>調</b>「話す・聞く」の領域については、区平均・全国平均とほぼ同じであった。スピーチ活動だけでなく、聞く姿勢や態度を向上させる指導を繰り返し行っていく必要がある。</p> <p><b>学</b>話を聞く姿勢が良くなったことで、話の内容を理解する児童が多くなった。引き続き姿勢を意識させて聞かせたい。</p> <p><b>学</b>正しい姿勢で書くことを繰り返し指導していたので、字を丁寧に書くことができるようになった。誤字脱字を自分で確認できると尚良い。</p> <p><b>調</b>「読むこと」についても区平均・全国平均とほぼ同じであった。何が問われているかを意識させるよう指導したり、物語の読み聞かせを行ったりすることを通して、読書に親しむ活動を増やしていくことが望まれる。</p> <p><b>調</b>「書くこと」では、区平均・全国平均を下回っていた。主語や述語の役割を確実に押さえ、修飾語も入れた文章を視写したり、短文作りの機会を増やしたり、「書くこと」に親しむ活動を取り入れていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わるように理由や事例を挙げて筋道立てて説明できるようにすること</li> <li>・叙述をもとに正しく内容を捉えたり、場面の様子や気持ちを想像したりできるようにすること</li> <li>・考えや理由など内容のまとまりを意識し、書く順序をはっきりさせて、分かりやすい文章を書けるようにすること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科で頭括型の話型や理由の示し方を繰り返し指導し、活用・習熟の場として、他教科も含めて小グループやクラスで話し合う活動を意図的に設定する。</li> <li>・学習のめあてに対して、叙述をもとに思考することができるように、ポイントを絞ったサイドラインや叙述相互の関係を捉えるためのツールを学習に取り入れる。</li> <li>・国語科の授業で、取材メモやウェビングなど書く内容を広げたり深めたりする方法や内容のまとまりを意識するための簡単な構成を指導し、家庭学習等の短文や日記を活用して習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチなどの発表の場だけでなく、短作文などを通して頭括型の表現の指導を重ねてきているが、日常的に使いこなすことはできていない。様々な学習を支える力となるので、今後も話型指導と話し合う活動を意図的・計画的に学習活動に取り込み定着を図る。</li> <li>・読むことの学習では、学習のめあてに対して、サイドラインを引いて叙述をもとに考えるという意識は定着したが、読みの深まりという点では不十分である。いくつかの叙述や友達の考えを参考に、自分の読みを再考する学習活動を設定するとともに、活動を促す思考ツールを活用させる。</li> <li>・短作文や日記に継続的に取り組むことで、書くことへの抵抗は減った。内容のまとまりや構成について指導したが、普段書く文章はまとまりが不明瞭なものや同じことの繰り返しになっているものが多い。「はじめ—中—終わり」「頭括型」など簡単な構成の指導を、様々な書く活動の中に取り込んでいく。</li> </ul>	<p><b>調</b>「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均より2.3pt上回っている。頭括型の話型や理由の示し方を繰り返し練習したことにより、伝えたいことを意識した話す・聞くができるようになってきている。さらに、軽重をつける指導などを行い、目的や意図を意識できるように指導していく。</p> <p><b>調</b>「読むこと」の領域は、全国平均より7.6pt上回っている。叙述をもとに場面の様子や登場人物の心情を想像することを指導し定着してきている。今後さらに複数の叙述をもとに思考したり様々な読みを比較したりする指導を行い、読む力の深化を図っていく。</p> <p><b>調</b>「書くこと」の領域は、全国平均より13.1pt上回っている。年度当初の課題であった書く力の向上を図れた。年間を通した継続的な指導によるものと考えられる。今後、一文のつくりや構成をはっきりとさせた指導を取り入れながら指導を継続していく。</p> <p><b>調</b>言葉領域で大きな課題が残った。全国平均よりは0.8pt上回ったものの、言葉の特徴や使い方では、マイナス6ptと大きく下回っている。文の主述をとらえる学習や辞書を活用したり同意語や対義語集めをしたりするなど、文法や語彙の指導を丁寧に行っていく。</p>

	算数	<p>調基礎的な計算問題は、授業では、概ねできている。しかし、新宿区学力定着度調査では、区・全国平均を下回っていた。算数少人数の良さを活用し、繰り返しドリル学習を行ったり、単元末に習熟の時間を設けたりして基礎力を養う指導をしていく。</p> <p>調活用力は、区平均・全国平均を上回っている。基礎基本だけでなく、難しい問題にも進んで取り組んだ成果が表れている。引き続き、応用問題に取り組むよう指導していきたい。</p> <p>調思考力も区平均・全国平均を上回っていることから、題意を捉え考えて問題を解く習慣が身に付いた成果が表れたのだと思われる。引き続き、思考力をつけるために、ICT機器を活用しながら思考の可視化を図り、深い学びに繋げていきたい。</p>	<p>・繰り上がり、繰り下がりのある計算を正確に解けるようにすること。</p> <p>・問題の意味を正しく理解し、絵や図、文、式を使って、自分の考えを説明できるようにすること。</p>	<p>・朝の学習タイムで、計算を解く過程や検算の中で、繰り上がりや繰り下がりをよく確認しながら、計算練習に取り組めるようにし、反復練習を積み重ねることで、基礎を定着させる。</p> <p>・授業では、自力解決の時間を十分に確保する。</p> <p>・自力解決の時間に、自分の考えをノートに、絵や図、文、式を使って書けるように、良い例を授業内で多く取り上げる。板書にヒントとなるキーワードを書いたり、解法の手順をみんなで確認したりする時間を設けることで、自分の考えをもてるようにする。</p>	<p>・デジタルドリルや計算ドリルなどに繰り返し取り組ませたり、かけ算九九を十分習得できていない児童に百マス計算を行ったりと継続的な取り組みを行い、基礎的な計算力の向上を図ることができた。</p> <p>・筆算では、繰り上がり、繰り下がりの処理を明確に示すことを徹底し、正確に計算できるようにするとともに、今後も繰り返しドリルに取り組みせ定着を図っていく。</p> <p>・デジタル教科書を活用して問題の意味理解を促したり、問題の文言や操作の意味を処理と結び付けたりすることで問題のイメージ化を図ってきた。今後も継続していく。</p> <p>・単元の内容に応じて思考場面を設定し、考えを数学的に表す指導を行った上で、自力解決の時間を確保したことで、自分なりの考えをもち、表現できる児童が増えてきている。今後、互いの表現のよさを確認したり、考え方を知ったりする場を意図的に設定し、思考力・表現力の充実を進めていく。</p>	<p>調教科総合としては、全国平均より 2.4pt 上回っている。デジタルドリルや計算ドリルなどに継続的に取り組んだ成果と考えられる。一方で、A層－D層の数値が大きいことから、今後、学習理解が困難な児童が学年進行に伴いさらに理解が困難になっていることが考えられる。既習内容の補習、家庭との協力による課題克服など、手立てを講じていく。</p> <p>調知識・技能は全国平均より 3.7pt 上回っているが、思考・判断・表現は 0.9pt 下回っている。また、式による表現が－5.1pt と他と比較して著しく低下している。出題形式でも、記述式が 2.6pt 下回った。思考場面を設定し、考えを数学的に表す指導に努めたが、十分な定着を図れなかった。自力解決の時間を今後も十分確保するとともに、論理的な表現の仕方や説明の仕方について、具体的な例示をしながら指導していく。</p> <p>学図形や時刻と時間など、理解に時間がかかり習得も不十分な内容（領域）がある。年間計画の中で、児童の特性に合わせた時間配分を行い、指導の充実を図っていく。</p>
4	国語	<p>学読み取る内容を明確にした授業づくりを行ってきた。授業では文章中から根拠を探して読み取ることが徐々にできるようになってきた。不十分な点もあるので今後も継続した指導が必要である。</p> <p>調比較的物語文の読み取りの方が説明文の読み取りよりも正答率が高かった。今後は、説明文の読み取りで指示語や接続詞など注目すべき点を押さえながら指導していく必要がある。</p> <p>学自分の考えを書くことに関しては、教科書などの例文を用いて指導を繰り返してきた。一文が短くなったり、主語と述語の関係を正しく整えたり、徐々に上達してきた。今後も文章を書く活動を継続し、力を付けていく必要がある。</p> <p>調情報と情報の関係について理解し、内容の中心を明確にして書く問題で誤答、無回答が全体の4割を占めている。今後、説明文の要約など、文章中の情報を把握し、表現する指導をしていく必要がある。</p>	<p>・大切などころを意識して、内容を正確に読み取り、根拠を明確にして自分の考えをもてるようにすること。</p> <p>・内容の中心やまとまりを考えて内容を整理し、考えとその理由・事例を明確にして文章にまとめることができるようにすること。</p> <p>・友達と意見や感想を伝え合い、自分の考えを広げられるようにすること。</p>	<p>・一人読みの時間を確保し、毎時間のめあてに向かって自分の考えをしっかりと練られるようにする。その上でペアやグループでの交流の時間も多く設け、多様な考えに触れたり、自分の考えに自信をもったりできるようにする。</p> <p>・書く前に内容や構成を考えるなど、文章を書く際の計画の立て方を指導する。また、1度書いただけで終わらず、ポイントを提示して自身で推敲させることで、作文の書き方を確認し、その後に生かせるようにする。</p> <p>・「互いの考えを確認→賛成・反対を伝え合う→共通点や相違点について話し合う」という段階を踏んで指導していくことで、考えを伝え、交流する力が身に付くようにする。</p> <p>・国語に限らず、日々の授業や家庭学習において、自分の考えや学習の振り返りを言葉でまとめる活動を多く取り入れる。</p>	<p>・一人読みの時間を確保し、叙述を根拠に考えられるように、本文と自分の考えをつなぐ学習を徹底して行った結果、根拠を明確にして自分の考えをまとめることができるようになってきた。交流の時間も多く取り、自分の考えを人に伝えることに慣れてきた。後期は、自分の読み取った内容を、示された話型や考え方に沿って整理し、発表のし合いから話し合いになるように指導する。</p> <p>・新聞や作文、日記など書く機会を多く設けてきたが、主述を誤っていたり、語彙が少ないためいつも同じ表現になっていたりと書くことには課題が残る。気持ちの豊かな表現や推敲の仕方など、具体例を示して指導していく。</p> <p>・話し合いには意欲的な児童が増えてきた。視点や話型を示して、話し合いの内容を充実させていく。</p>	<p>調国語では、教科総合が全国平均を 6.4pt 上回った。基礎・応用ともに全国平均を上回っている。特に漢字や言語に関しては継続した指導の効果が出ている。</p> <p>調また読むことの領域では全国平均を 10pt 以上上回っており、一人読みの時間を確保したり、話し合いを多く取り入れたりすることで思考力が上がった結果が表れている。読むことへの抵抗も減ったことも考えられる。</p> <p>調一方で、書くことにおいては、全国平均を 4pt 上回ってはいるものの、平均正答率が 30.0pt と低い傾向にある。まずは「意味が通る文にする」ため、「主述の関係を意識して書く」「伝えたいことを明確にする」「一文を短くする」などポイントを意識させ、その都度指導していく必要がある。また、書くことへの抵抗を減らすため、日常的に書く機会を多く取り入れることが効果的だと考える。</p> <p>学話し合いは学年当初に比べて格段にできるようになった。特にグループでは、自分たちで意見を言い合い、考えを深める姿が多くみられる。全体での話し合いに反映させていくことが今後の課題である。</p>

	算数	<p>調 繰り上がりが複数回ある問題に関しては9割以上の児童が正答しているが、波及的繰り下がりのある問題では目標値を下回っている。今後、波及的繰り下がりがある問題を中心に継続して指導していく必要がある。</p> <p>学・調 問題文の中から「分かっていること」「答えること」の確認を継続して行った。また、そのことから立式できる児童が増えた。学力調査からも立式に関する問題はすべて目標値を上回った。今後も問題文の把握を繰り返し指導していく必要がある。</p> <p>調 はかりの読み方に関する問題の正答率が目標値を上回り9割以上の児童が正答することができた。しかし、物の重さを推察し、適切な単位を使うことに関しては目標値を下回っている。今後、長さや重さなどの指導の際には実際に計測させるなど実感を伴った活動を重視し、単位を理解させていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り下がりのある計算だけでなく、繰り上りのある計算やかけ算九九などの基礎計算、桁の多い数のかけ算の筆算など手順の多い計算を正確にできるようにすること。</li> <li>分度器の基本的な使い方を身に付け、正しく扱えるようにすること。</li> <li>実生活と結び付けたり、見当をつけたりして、数量の感覚を身に付けられるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習や朝学習で、継続的に取り組み定着させる。計算ドリルノートとタブレット端末のデジタルドリルを併用して繰り返し取り組む。また、間違いを確実に直すよう習慣付ける。</li> <li>「角の大きさ」の単元では、問題や身の回りの角度を測ることを通して分度器の使い方を身に付けさせる。また、単元が終わってからも、定期的に分度器を取り扱う機会を設け、定着を図る。</li> <li>課題解決の時間や振り返りの時間など、身に付けた知識や技能を用いたり、身の回りの事象と結び付けて考えたりする機会を多く設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算や数の仕組みなど、基礎・基本に課題がある児童が多く見られる。家庭学習の計算ドリルや単元末テストの直しを丁寧に行い、分からないままにしないように習慣付ける。</li> <li>分度器のみならず、線は定規で引く、作図は1ミリ1度以上ずれないようにする、などの基本事項が意識できない。家庭学習に定期的に取り入れ、定着を図る。</li> <li>習熟度別クラスの実態に合わせ、課題解決の時間や単元の振り返りの時間を確保しているが、「分かったこと」で止まってしまい、深い思考につながらない。「考え」「気付き」「(生活や他の学習と) つなげて」考えるという「わかつき」(合言葉)を意識して考えをまとめるように声掛けする。</li> </ul>	<p>調 計算の領域では6.8pt、変化と関係の領域では7.4pt 全国平均を上回っている。家庭学習や単元末のテスト直しなどを丁寧に教師が見取り、指導してきた成果が出ている。九九やわり算等、基礎学力に大きな差があるので、今後も個別の支援が必要である。</p> <p>調 図形の領域では5.7pt、測定の領域では5.0pt 全国平均を上回っているものの、通常の学習においては正確な作図に課題が残る。分度器、コンパス等の用具の操作を意識させていく。</p> <p>調 基礎・応用ともに全国平均を上回っている。特に応用的な問題に関して、全国平均を11.2pt上回っており、毎単元で課題解決の時間や振り返りの時間を確保し、思考を深めた成果が出ている。</p>
5	国語	<p>調 説明的文章の内容を読み取る問題では、全国平均や区の平均正答率を上回った。しかし、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する設問では、正答率が低かったため、今後も継続的な指導が必要である。</p> <p>調 文章を書くことに関する項目では、全国平均や区の平均正答率を大きく下回る結果となった。自分の考えを書かせることは、授業の中でも重点的に指導した。しかし、自分の考えをまとめて相手にわかりやすく伝えるという点において十分ではないので、今後も継続的な指導を続けていきたい。</p> <p>調 「漢字を読む・書く」の項目では、全国平均と区の平均正答率を上回った。定期的に漢字小テストを実施し、間違えた問題については、漢字を正しく覚えさせることが引き続き必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読み取る場面で、登場人物の心情の変化や場面の移動を捉えられるようにすること。</li> <li>自分の考えを発表する前に、まず、自分の考えをしっかりとるようすること。</li> <li>漢字を正しく覚えられるように指導すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章に多く触れさせるために、教科書の視写を取り入れ、文章を書くことの抵抗感を無くすと同時に、読み取るための見落しを無くさせる。</li> <li>授業では、登場人物の心情の変化や場面の移動を捉えるために、キーワードをもとに書き出す訓練をする。</li> <li>自分の考えをグループで発表して、考えをまとめさせる。また、友達の考えを聞くことによって自分の考えとの違いを発見して文章にまとめさせる。</li> <li>漢字の小テストを定期的実施し、間違えた漢字は、繰り返し練習することにより正しい漢字を書けるようにさせる。</li> <li>漢字の成り立ちで漢字の成立の意味を理解させる等、漢字に興味をもたせ、定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書く場面を多くとるような指導をしてきている。また、学習のまとめで、自分の考えだけでなく友達の考えを取り入れながら、考えを広めたり深めたりしていこうとする態度がどの子にも見られるようになってきたので継続して指導する。</li> <li>文章を読み取る場面で、登場人物の心情の変化や情景の移動を捉えられるようにするために、心に残った叙述を書き留めることによって、登場人物の関係や情景の変化を具体的に捉えられるようになってきたので指導を継続する。</li> <li>自分の考えをグループで発表して、友達の考えを聞くことによって、自分の考えとの違いを見つけて文章にまとめられるようになってきたので、さらに指導を継続する。</li> <li>漢字の小テストを定期的実施し、間違えた漢字は、繰り返し練習して満点を取らせることや、漢字の成立を理解することで、漢字の書き取りに対する意欲が高まり、正しい漢字が書けるようになってきたので、引き続き指導する。</li> </ul>	<p>調 文章を書く場面を多くとるような指導をしてきたが、読む力の学力が全国平均よりは高いものの、区の平均よりは低い。同様に、自分の考えをまとめて書くことに関しても、区平均よりも低いことが分かった。しかし、話すこと・聞くことに関しては、全国・区平均よりも突出して高いという結果が出ている。このことは、学習のまとめで、自分の考えだけでなく友達の考えを取り入れながら、考えを広めたり深めたりしていったことが良い結果になったと考えられる。文章を読み取る場面で、登場人物の心情の変化や情景の移動を捉えられるようにするために、心に残った叙述を書き留めることによって、登場人物の関係や情景の変化を具体的に捉えられるような指導を継続する。</p> <p>学 自分の考えをグループで発表して、友達の考えを聞くことによって、自分の考えとの違いを見つけて文章にまとめられるようになってきたので、さらに指導を継続する。</p> <p>調 漢字の読み・書きに関しては全国・区平均ともに大きく上回っているため、今後も、漢字の小テストを定期的実施し、間違えた漢字は、繰り返し練習して満点を取らせることを引き続き指導する。</p>

	算数	<p>調数と計算の項目では、新宿区学力定着度調査で全国平均と区の平均正答率を上回っているが、デジタルドリルや学習タイムを活用し、年間を通して練習問題に取り組むことが必要である。</p> <p>調変化と関係とデータの活用の項目では、新宿区学力定着度調査で全国平均と区の平均正答率を上回っているものの、今後も学習タイムやデジタルドリルを活用し、繰り返し復習をすることが必要である。</p> <p>調図形の項目では、新宿区学力定着度調査で区の平均正答率を下回っているため、プリントで繰り返し作図の練習をさせることが必要である。</p>	<p>・計算の場面で、慌てて位を間違えたり、小数点の位置を間違えたりしないように指導すること。</p> <p>・データの活用では、データを丁寧に読み取れるようにすること。</p> <p>・図形の作図では、定規やコンパスなどの道具を正しく使って、作図できるようにすること。</p>	<p>・筆算を行う際に、位を揃える、足し算を間違えない等、基本的な技能を朝学習などで、ドリルを使いながら練習させる。</p> <p>・位や小数点の意味を確実に理解させる。</p> <p>・データ活用では、算数だけではなく、社会科、理科などの教科に表れるグラフの読み取りを活用する。</p> <p>・時間軸や変化する量の関係を確実に把握できるようにする。</p> <p>・定規、コンパスを多くの場面で用いて、作図やデザインなどを数多く描かせ、算数の道具に慣れさせる。</p>	<p>・引き続き、筆算の際には位取りや小数点の意味を理解させながら、繰り返し練習させる。</p> <p>・分数の約分、通分の学習で、単純に出てきた数字を割ったり掛けたりという作業のみで、分数本来の意味が理解されていない児童がいる。分数の本来の意味を繰り返し学習させることにより、分数の計算を確実に理解させる指導を続けたい。</p> <p>・データ活用では、算数、社会科、理科などの教科に表れるグラフの読み取りを活用して児童の課題の発表の資料として活用させている。</p> <p>・引き続き時間軸や変化する量の関係を確実に把握できるようにする。</p> <p>・図形の作図では、定規やコンパスなどの道具を正しく使って、作図できるようにさせ、正確な作図をすることによって図形の問題の解答を正解に導かせる指導を続ける。</p>	<p>調数と計算の領域では、全国・区平均ともに同水準であった。引き続き、筆算の際には位取りや小数点の意味を理解させながら、繰り返し練習させていく。</p> <p>学分数の約分、通分の学習で、単純に出てきた数字を割ったり掛けたりという作業のみで、分数本来の意味が理解されていない児童がいたため、分数の本来の意味を繰り返し学習させた。その結果、分数の計算を確実に理解させることができた。</p> <p>学データ活用では、算数、社会科、理科などの教科に表れるグラフの読み取りを活用して児童の課題の発表の資料として活用させてきたため、引き続き、教科を横断する授業を続けていく。</p> <p>調変化と関係の単元では全国・区平均を大きく上回っているため、引き続き時間軸や変化する量の関係を確実に把握できるようにしていく。</p> <p>調図形に関しては、平面図形・立体図形・面積・体積何れも、全国・区平均を大きく上回っているため、今後とも、定規やコンパスなどの道具を正しく使って、作図できるようにさせ、正確な作図をすることによって図形の問題の解答を正解に導かせる指導を続けていく。</p>
6	国語	<p>調「我が国の言語文化に関する事項」は、区や全国の平均を下回った。漢字の由来についてや、修飾語が指す内容について問われる問題に苦戦していたようだ。漢字については、日々の授業の中で由来や部首などを取り上げ、理解を深められるようにする。修飾語についても、文法の学習だけでなく、「読むこと」の学習の中でも意識して児童に問う等、言語に対する興味・関心を高めることで、理解を深められるようにしていく。</p> <p>調「文章を書く」問題では、指定された内容で文章を書くことはできていたが、より自分の意見を明確に書くことができると良い。一日の振り返りを書く活動を行ったり、ミニ作文を書く活動を積み重ねたりすることで、自分の思いや考えを詳しく書けるように指導していく。</p>	<p>・漢字を正確に覚え、日常的に活用できるようにすること。</p> <p>・言葉と言葉のつながりを考えながら文章を読めるようにすること。</p> <p>・テーマに沿って自分の考えを述べたり、活動を通して感じたことや考えたことを表現したりできるようにすること。</p>	<p>・漢字テストを2段階に分けて行う。1回目のテストでは、自分自身で解答を見て丸付けをすることで、漢字の細かい部分に注目させる。2回目のテストは実力テストとし、担任が20問の中からランダムに10問を出題することで定着を確認する。</p> <p>・「読むこと」の授業の中では、特に言葉に着目させるために、読みの視点を明確に示す。また、言葉と言葉のつながりを考えるためには、言葉の意味を確実に理解する必要がある。授業の際にはいつも国語辞典を用意し、児童が自ら学べる環境を整える。</p> <p>・各教科の授業終わりの時間に、自分自身の学習を振り返る時間を確保する。自分のことについて書いたり、視点に沿って振り返ったりしたことを文章化することに慣れさせていく。また、5年生から続けている一日の振り返りを続けていく。自分の伝えたいことを簡潔に書くための練習を毎日繰り返すことで、書くことに慣れさせていく。</p>	<p>・漢字テストを定期的に行い、間違い直しを確実に行うことで平均点が上がってきている。テストに向けて自主的に学習する習慣がついたことが、大きな成果である。しかし、日常的な活用についてはまだ十分とは言えない。授業中のノート指導や、毎日書いている振り返りへの指導の中で、漢字を活用できていない児童については粘り強く指導していく。</p> <p>・「読むこと」の学習では、読みの視点を全体で確認した上で一人読みの時間を十分に確保するよう心がけた。言葉に着目させながら、一人読みの中でも言葉と言葉を関連させて考えられるように引き続き指導していく。国語辞典の活用については、定着してきている。分からないことがあると、すぐに辞典を引いて確認する児童が多く見られる。</p> <p>・「書く」活動は、継続して行っている。毎日コツコツ積み重ねることで、短い時間の中で自分の考えをまとめ、言葉に表すことができるようになってきているので継続して指導していく。</p>	<p>学漢字テストは、年間を通して良い結果だった。学期末の漢字50問テストでは平均90点と、日々の学習の成果を発揮することができた。</p> <p>調基礎・応用問題共に全国平均よりも平均正答率が12pt上回り、おおむね良い結果だった。「読むこと」の正答率については、全国平均よりも15.5pt上回っていた。授業中の一人読みでも、言葉と言葉をつなげて登場人物の心情を考えられるようになってきたように感じる。しかし、より深く読むためには様々な友達の意見を聞き、視野広く考えることが大切である。全体交流の場での学びをより深められるような授業展開を今後も模索していく。さらに、「書くこと」の正答率は全国平均より16pt高かった。毎日短文ではあるが、自分自身の一日を振り返る文を5分でまとめたり、授業の最後には学習の振り返りを書いたりする活動の積み重ねが大切だったように感じる。しかし、「読み手に対して分かりやすい文」や「構成を工夫した文」を書くことについては、まだまだこれから技術的な指導を積み重ねていくことが必要である。</p>



	算数	<p>【調】「小数第一位×小数第一位（純小数同士の乗法）」「文章問題を解くために小数の除法の立式をしている」「小数の除法を用いて解き方の説明をする」問題は目標値と同程度の結果だった。どれも、小数の計算である。立式や解き方の説明は、授業の中でも力を入れて行ってきたが、立式の意味やどのように解いたかを、より自分自身で説明できるような学習を大切にしていく。</p> <p>【学】文章問題では、何を求めなければならないのかをよく理解せずに、立式してしまう児童が多い。自分が出した答えの数字は何を表しているのかを考える習慣を授業の中で身に付けさせていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えを出すまでのプロセスを、自分自身で説明できるようにすること。</li> <li>・文章問題では、何を求めなければならないのかを理解し、問題に正対して答えられるようにすること。</li> <li>・小学校最終学年として、今までに学んだ基礎基本を確実に身に付けられるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項をどのように活用したか、どのような考えを使って解いたかを、ノートに書き表す学習を積み重ねていく。答えを出すことと、考えのプロセスを書くことはセットにしているように指導する。</li> <li>・授業中の発表の仕方を工夫する。式を提示する児童とその式の説明をする児童を別々にする等工夫することで、どのように考えたか全体交流の場でも思考を深められるようにする。</li> <li>・授業中に間違えた問題については、なぜ間違えたのかに注目させ、自分で解説を書くことで学習理解を深められるようにする。</li> <li>・毎日の宿題では、日々の授業の復習となる練習問題を行う。</li> <li>・学習タイムでは、タブレット端末のデジタルドリルを活用し、前学年までの学習内容の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が立てた式は、何を求めるための式なのか、出てきた数字は何を表すのかをいつも説明できるようにと授業の中で指導を積み重ねている。どのように答えにたどりついたのかをノートに書くだけでなく、友達に「分かりやすく」伝える活動を繰り返すことで、より論理的に物事を考えられるようにしていく。</li> <li>・「問題を間違えるといけない」と思っている児童が多く、隠そうとしてしまう。しかし、「授業中の間違いは学習を深めるチャンス」だと伝え、何を間違えてしまったのかをじっくり考えることで学習理解を深められるようにしていく。</li> <li>・宿題で間違いが多かった部分については、朝学習や帰りの会等で全体確認を行う。間違いが多かった部分については、宿題で繰り返しかえし復習できるようにする。</li> </ul>	<p>【調】全国平均よりも平均正答率が基礎では15.9pt、応用では19.4pt上回り、全体的に概ね良い結果だった。特に応用問題の正答率が高く、自分の考えをノートに書き、友達に「分かりやすく」伝える活動を繰り返し行ってきた成果が見られた。しかし、領域別に見てみると「数と計算」の問題でミスをしてしまっている児童が多い。計算の正確さや、分数の計算の最後に約分をすることなど、基礎・基本が疎かになってしまっている傾向がある。宿題で行っている計算練習や、朝学習でもタブレット端末を活用して基礎・基本問題を行ってきたが、時間を決めて、集中してミスなく解く練習を繰り返していくことが必要である。中学校進学に向け、基礎・基本の徹底を行っている。</p>
	音楽	<p>【学】音楽活動に興味関心をもって、多くの児童が意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【学】学びに向かう意識の低い児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身や友だちの想いを大切にしたい表現活動ができるようにすること。</li> <li>・音や活動に対して、注意深く聴いて感じられるように指導すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールステップと反復のある課題を設定することで、自信をもって取り組めるようにする。互いに認め合う活動を設定する。</li> <li>・対話的な練習や課題を通して、表現の気付きを増やし、多様な表現の楽しさを感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールステップと反復のある課題を充分に取り組みさせた後に表現のテストを行うことで、自らの表現の良さや友達の表現に気が付くようにする。</li> <li>・音や活動に対して、表現の気付きを、発言やワークシートで見取り、児童の言葉から音楽的要素を汲み取り、学びとして結び付けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身や友だちの想いを大切にしたい表現活動ができるようにすることは、生活全般の言葉遣いや態度の影響がある。音楽室は落ち着いて音を楽しむ所ということを指導してきたことで、合奏への意欲が高まった。継続して指導する。</li> <li>・表現に対しての気付きを発言やワークシートから学び取ってきたことで、友達の表現の良さを探す発言内容が深く活発になった。</li> </ul>
	図工	<p>【学】新しく学習する道具や材料に関して、意欲的に取り組み、多くの児童が自分自身の思いに合わせて表現活動しようとしている。</p> <p>【学】学びを深めていくために創意工夫をしようとする意欲が低い児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動や作品に真剣に取り組むようにすること。</li> <li>・自分や友達の思いを大切に表現し、お互いを認め合えるようにすること。</li> <li>・聞く時間、つくる時間をしっかりと分けて活動に集中できるようにすること。</li> <li>・作品はもちろんのこと、材料や用具を大切に扱い、使用したものをきちんと片付ける力を育てること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工の授業での取り組み方のルールを5つ（本気で取り組む・お互いを認め合う・聞く時間とつくる時間のメリハリ・作品を大切にすること・しっかり掃除をすること）設定し、開始、終了時に振り返りをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工の授業での取り組み方のルールは継続していく。低学年には理解が難しいので、わかる言葉、絵などで伝えるようにする。</li> <li>・活動のふりかえりの仕方を考え直し、気付きや学びが定着できるようにする。また、できなかったことも認識させ次の活動につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の、「話を聞く」「つくる」「見る・感じる」の絵表示による時間の区別が、特に1年生では定着してきている。</li> <li>・活動後の片付けは、特に1～3年はしっかりできている。次年度も継続していく。</li> <li>・活動のふりかえり、鑑賞などの仕方を考え直し、気付きや学びが定着できるように題材ごと適した方法を模索したい。</li> </ul>
	特支	<p>【学】異学年と一緒に学習する環境下であり、また継続した学習に取り組むことができず、定着度が十分でない児童が多い。(昨年度については、オンライン授業が主体であったため)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を定着させ、学習を生活に生かせるようにすること。</li> <li>・主体的に学び、自分の考えを伝えられるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器や個々のタブレット端末を活用し、学習したことを振り返ることができるようにする。</li> <li>・体験的活動を通して定着を図る。</li> <li>・東京ベーシック・ドリルやミニテストに取り組む、学習内容を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリルで課題に取り組むことができる児童がいる反面、プリントの方が効果的な児童もいるので、個別に対応して課題に取り組めるようにする。</li> <li>・体験的活動の設定はオンライン授業下で、難しさもあったが、双方向のやり取りにより、できる範囲で今後も行っていく。</li> <li>・繰り返し取り組めるように、さらに既習単元の復習を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント学習により、習熟度を確認した。ワークテストにつながる指導として有効だった。</li> <li>・理科の実験や書き初めなど、治療に支障のないように取り組むことができた。直接操作したり触れたりすることの学習効果は高く、言語による考察も深まった。</li> <li>・既習単元の定着のため、継続的に取り組んでいく必要はある。</li> </ul>

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。